

令和7年度 生活支援体制整備事業の 取組方針

草津市 人とくらしのサポートセンター

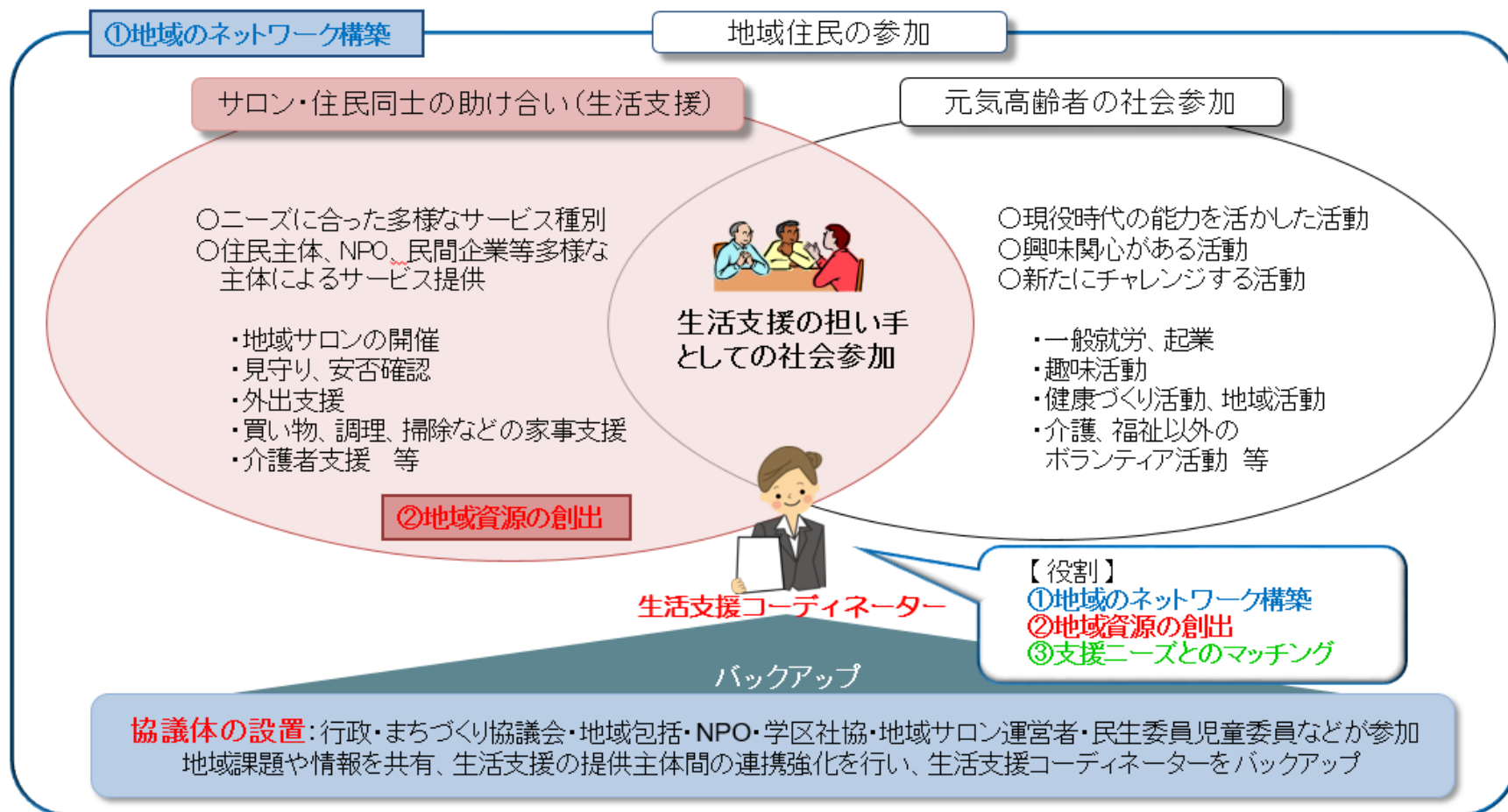
生活支援体制整備事業 概要

基本目標Ⅰ 住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり ～地域包括ケアシステムの深化・推進～

事業

生活支援体制整備事業の推進

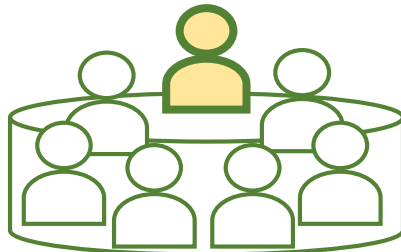
生活支援体制整備事業は、生活圏域ごとに生活支援コーディネータの配置と協議体を設置し、多様な主体による生活支援体制の充実・強化など、地域における支え合いの体制づくりを推進するとともに、高齢者の社会参加や生きがい、介護予防を一体的に推進していくことを目的に実施する。



本市における協議体・コーディネーターの配置・構成

第1層（市域全域）

第1層SC
（人とくらしのサポートセンター職員）



草津市あんしんいきいきプラン委員会

第1層協議体

【第1層SCの役割】

市域全域（第1層）において、

- ◎地域横断的な課題の抽出や資源の充実
- ◎ネットワークの構築
- ◎第2層SCの支援

【第1層協議体の役割】

市域全域や複数の第2層協議体に関わる広域的観点から

- ◎地域課題の解決に向けた検討
- ◎地域づくりにおける意思統一（方向性の共有）の場
- ◎地域づくりを推進するための施策等の検討

※平成31年2月27日開催の第3回草津市あんしんいきいきプラン委員会において、草津市あんしんいきいきプラン委員会を第1層協議体と位置付けることを了承いただいています。

第2層（小学校区）

第2層SC



第2層協議体

第2層SC



第2層協議体

第2層SC



第2層協議体

【第2層SCの役割】

各小学校区（第2層）において、

- ◎地域資源とニーズの把握
- ◎ネットワークの構築
- ◎地域資源の新たな創出
- ◎ニーズと取組のマッチング

※第2層SCは草津市社会福祉協議会に委託し、各小学校区ごとに配置

※第2層協議体・・・「学区の医療福祉を考える会議」

第2層協議体「学区の医療福祉を考える会議」について

医療福祉を考える会議とは

地域住民と医療・介護・福祉の関係者が集まり、地域のネットワーク構築を図りながら、地域の現状や課題を共有し、課題解決について話し合い、地域における支え合い活動を広げていくことを目的に、各小学校区ごとに開催される会議（令和7年度時点：13学区にて実施）

開催主体

地域の団体、市社会福祉協議会、地域包括支援センターなど

メンバー

各学区の実情、課題、取組内容に合わせて選定

地域：学区社会福祉協議会、まちづくり協議会、民生委員児童委員等

医療・介護・福祉関係：医師（地域の開業医）、介護サービス事業所等

市社会福祉協議会、地域包括支援センター、人とからしのサポートセンター（地区担当保健師）

これまでの取組

- ・資源マップ、居場所マップの作成
- ・地域カフェの開始
- ・地域支え合い運送の開始
- ・地域安心声かけ訓練の実施 など

第2層SC



第2層協議体「医療福祉を考える会議」

令和7年度の取組方針

目指す姿:住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくり

ねらい・方向性

- ・市社会福祉協議会に第2層SCを配置し、市・地域包括支援センターとの連携のもと、各学区での協議体の設置・運営に向けて取り組む。
- ・第2層協議体では解決が難しい地域横断的または市全域の課題として検討が必要な事項については、第1層協議体において取り組む。

R7年度方針

- ・第2層協議体である学区の医療福祉を考える会議において、地域の各団体や専門職が地域の現状や課題について共有し、高齢者が自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくりを促進する機会をもつ。また、メンバー同士の顔の繋がる関係を促進する。
- ・第1層協議体である「草津市あんしんいきいきプラン委員会」において、第2層（各学区）の課題や取組状況について共有し、市域全体として検討が必要な課題や方策等について協議する。

第2層

【事業実施計画】

医療福祉を考える会議を展開し、この会議が協議体として機能していくように取組を進める。また、医療福祉を考える会議未設置学区については、設置されるように働きかけ、地域で暮らす多様な住民や団体どうしのネットワークづくりとなるように支援する。

各学区の計画

学区	令和7年度計画
志津	・認知症の理解や見守り、支え合いに向けた取組として、「志津学区版 認知症の人にやさしいお店や事業所」や独自の養成講座の動画作成といった取組の実現に向けてすすめていく。 ・地域や事業所で実施されている認知症高齢者に関連する取組状況を会議参加者が共有できる場面を増やすとともに、参加者がどのようなテーマで学びを深め、取り組みたいかといった声を引き出せるよう、会議のすすめ方を工夫する。
志津南	「ピカっと草津(※)」の取組を候補に含め、テーマを検討している。テーマによっては、まち協発行広報誌で医療福祉を考える会議や学区社協の活動を周知し、新たな関係者の参画も検討する。

※「ピカっと草津」・・・サービス事業所が訪問時に駐車場を確保することが難しく、適切なサービスを提供することが困難な場合がある。また、サービスは一部の人のものであるという、我が事として理解がされにくい状況がある。この課題について、地域とともに考え、フォーマル（介護保険制度・施策などのサービス）、インフォーマル（地域の支え合い活動）の協力の推進を図り、地域の理解を広げ、困っている人が困っていると言える地域、誰もが安心して住み続けられる地域を目指す取組。

学区	令和7年度計画
草津	・地域と介護事業所、専門職が互いの役割等を知り、つながりを深める。 ・多団体等とも連携しながら健幸を語り合うプロジェクトを学区住民に広く周知し、プロジェクト参画者を増やしていく。 ・若者世代、子育て世代の参加者を増やすことで、広い世代にプロジェクトへの関心をもってもらい、世代間で意見交換を行うことで、地域内の連携を深めていく。 ・ゆかい家の新たな取組と各団体の取組や取り組んでみたいこと等をマッチングさせ、ともに活動展開できないか企画検討を進める。 ・住民福祉活動計画の作成を進め、地域の社会資源を共有し、その活用方法や連携について考える。
矢倉	・「ピカっと草津(※)」の取組を進めるとともに、会議に参加していない地域住民に対しても福祉サービスの理解が広がるよう周知・啓発を行う。 ・事業所アンケートを実施し、駐車場に困っている地域を把握し、町会長委員会へ情報提供を行う。また、地域課題を掘り起こすため、事業所が関わっている利用者の困りごとに関するアンケートもあわせて行う。 ・事業所と地域がつながり続けるために、医療福祉を考える会議で顔の見える関係づくりを引き続き行う。
大路 (協議体未設置)	・学区社協と意見交換を行い、学区社協による現在の取組状況や学区として課題視している暮らしの問題を把握する。 ・学区内の社会資源に関する情報収集を行う。 ・各団体のまちづくりに対する考え方や取組方針について情報収集する。 ・学区社協やまちづくり協議会等の関係団体と協議し、地域福祉活動の検討の進め方を決定する。

第2層

学区	令和7年度計画
渋川	・地域住民を対象としたアンケートを実施し、地域課題を掘り起こす。 →アンケートの内容について検討し、町内会を通して全戸配布する。 ・アンケートの結果から見えてきた地域課題を共有し、今後医療福祉を考える会議で取り上げるテーマについて検討する。 →テーマが決まり次第、会議開催に向け、進め方や参加団体等について検討する。
老上	・地域課題と地域資源の再確認を地域とともにに行い、地域が主体となって取り組めるような「ピカッと草津(※)」の取組に続くテーマを検討する。 ・医療福祉を考える会議を柔軟に考え、人と人とのつながりのツールをつくり、地域の福祉の意識醸成のために、継続して実施していく。
老上西	令和7年6月に開始した有償ボランティア「おいにしhotけん」について、引き続き会議の中で、実際に地域住民や事業所等がこの取組を活用することで暮らしの問題を解決していけるように、進め方等を検討する。
玉川	・会議で取り上げるテーマに沿った地域課題等を地域とともに共有し、地域の方や事業所等の専門職が一緒になってできる取組や仕組みを考えていく。 ・地域課題を解決していくため、地域と専門職の関係づくりをしていくとともに、互いに協力し合えることを見つける。
南笠東	・地域と専門職で地域資源を見直し、資源マップを更新する。 ・地域と専門職の関係性の強化を図り、学区の実情をともにとらえ、暮らしの問題を解決するための地域での支え合いの仕組みづくりについて考える。

第2層

学区	令和7年度計画
山田	・「ピカッと草津(※)」の取組から生まれた地域助け愛応援駐車場の仕組みを継続して周知・啓発することで、引き続き課題を知っていただき、サービスの理解を広げる。 ・高齢者の困りごとを把握し、課題やニーズを共有しながら、支え合いの活動について検討していく。 ・事業所と地域が連携できる関係性の構築を図り、新たな課題の共有と担い手の発掘・育成につなげる。
笠縫	・「今ある活動の充実」「地域のネットワークを広げる」をテーマに、地域活動を把握し、事業所や地域の活動を巻き込みながら居場所づくりを進めていく。 ・事業所の活動とコラボしながら、活動の充実につなげていけるよう、事業所との連携も検討していく。 ・担い手確保のため、地域活動を継続してくれる人を発掘できるよう、福祉委員等への働きかけを検討する。
笠縫東	・「ピカッと草津(※)」の取組の周知・啓発を引き続き行い、地域の理解を広げる。 ・事業所へのアンケートにより地域の実態把握を行うとともに、あがってきた課題について地域でできることを考えていく。 ・事業所とよりつながりを深め、一緒に支え合いの仕組みづくりを考える。
常盤	参加者同士で高齢者の困りごとや暮らしの問題を共有し、「我が事」として考えられるきっかけをつくり、地域に必要な支え合いの仕組みづくりについて検討する。

第1層

「学区の医療福祉を考える会議」に参画する、市社会福祉協議会・地域包括支援センター・人づくりのサポートセンターの連携強化を図る。

事業における課題

取組に応じた役割分担を行っているが、「学区の医療福祉を考える会議」の機能や目指す方向性等についての共通認識が図れていないことから、連携のとりづらさがある。



互いの強みを生かし、話し合いを通じた柔軟な役割分担を行い、会議体の役割・機能について共通認識がもてるようにする。

- ・市社会福祉協議会
- ・地域包括支援センター
- ・人づくりのサポートセンター
- ・長寿いきがい課

※地域包括支援センターの委託元として
で協議を実施し、「医療福祉を
考える会議」に対する共通認識
を図る。

「学区の医療福祉を考える会議」
に参画する

- ・市社会福祉協議会
- ・地域包括支援センター
- ・人づくりのサポートセンター

で各学区の地域課題と取組の
方向性を共有する機会をもつ。

「学区の医療福祉
を考える会議」で
地域課題を検討し、
取組に反映する。

第1層

市全域(第1層)に関わる課題

高齢者等のごみ出しに関する現状・課題

- ・自力でごみ出しをすることが困難な高齢者や障害者等の世帯は、家族や近所の方の協力や、ホームヘルパーなどのサービス活用により、ごみ出しを実施されている。しかしながら、指定日当日の朝にごみ出しをしなければならないという制約があること等から、支援を受けることが困難な場合がある。
- ・今後さらに高齢化が進み、地域のつながりの希薄化が懸念される中、ごみ出しが困難な方は増える見込みであり、避けられない課題である。

「高齢者等ごみ出し支援事業」の開始 (R7.9~)

R7.6 支援団体募集開始

R7.8 申請受付開始

事業目的：コミュニティ支援型によるごみ出し支援を実施することにより、地域の声かけ・見守り、支え合いといった地域共生社会を推進し、住み慣れた地域で誰もが安心して生活できるまちづくりをすすめる。

※コミュニティ支援型：地域の共助（助け合い）の仕組みの中でごみ出し支援を行うもので、対象世帯の自宅から集積所まで、ごみ出し支援を行う団体を募集し、支援するもの。